

ごあいさつ

共生社会システム学会 会長  
東京農工大学 教授 朝岡幸彦

本学会は2006年に設立され、まもなく20周年を迎えます。この間、「共生」という概念はさまざまな文脈で語られ、本学会でも「共生社会」という概念を中心に多くの研究が蓄積されてきました。この概念は、「持続可能性」もしくは「持続可能な社会」とも読みかえることができるものです。いま私たちは喫緊の課題として、2030年までにSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。このSDGsこそが、「持続可能な社会」や「共生社会」を実現する鍵となるものであることを、多くの人は否定しないはずですが、逆に言えば、SDGsを達成しなければ私たちの社会そのものが崩壊し、消滅するリスクが大きいと理解されます。

さて、本学会の設立以降、私たちは「共生」と「持続可能性」をめぐって幾つかの大きな「危機」を経験してきました。例えば、2011年の東日本大震災と福島第一原発事故は、日本の研究者を中心に組織されている本学会にとって、「自然と人」「人と社会」の「共生」のあり方に大きな問題を投げかけるものでした。さらに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によるパンデミックは、感染症もしくはウイルスと人・社会との関係にとどまらず、「人と人」との関係問い直す「共生」概念の深化を求めているように思われます。昨年（2022年）は、地球規模での「共生」をめぐる会議として、国連気候変動枠組条約第27回締約国会議（COP27/エジプト）と国連生物多様性条約第15回締約国会議（COP15/カナダ）、ラムサール条約第14回締約国会議（COP14/武漢・ジュネーブ）が開かれています。その詳細と評価は本学会を含む各アカデミーにおける研究成果を待つとして、新たな段階における「共生社会」の実現が求められていることは明らかであるといえます。

みなさんのご参加と協力によって、「共生社会システム」の研究がより幅広く、多様で、多面的に進められることを期待します。

2023年1月27日